テーマ：学生と社会人の交流

学生と社会人が交流できる場所

■あるべき姿

・お互いの意見交換が自由にできる場がほしい　・お互いに学びあう
・マナーなどを学ぶことができる　・共栄　・社会の現実を伝える　・いつでも連絡取れる　・異業種・多世代で情報交流

■現状・課題

・学生との接点の作り方がわからない　・つながりがない　・大人と学生の交流の場が少ない　・就職につながる交流　・交流
・交流の場の作り方がわからない
・ジェネレーションギャップを知る　・時間のずれ　・興味があるものにしかいかない　・多くの学生は「就職」「遊び」（この２つ）　・お互いの誤解
・授業が忙しい　・自分達の興味に傾りがある　・横のつながりが少ない（グループで固まる）　・社会人と学生の垣根を越えた興味がわくイベント
・イベントのよさをどう伝えればよいかわからない　・学生には足がない　・長岡の大イベントですら、皆で決めたり、かかわれるものがない
・学生生活でいっぱいいっぱい　・学生には足がない（移動手段）

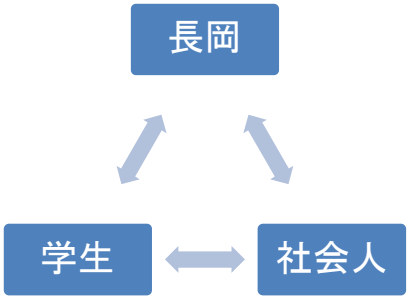
★長岡駅に巨大な公告を作り発信する　★小さい場で交流し、そこで企画を考える

★何か軸があればよい（例）アルビレックス新潟

■やれること

・学校側の強力なバックアップ　・地域で活動できる場を提供できる　・就職認定のようなものを発刊する
・イベント　・ツアーバスを出す　・車で迎えに行く？　・大学のシャトルバス　・タクシー
・学校協力がない　・長岡花火のイベントと連携　・若者会議のように集まって議論する場を作る
・若い子が興味あることをサーチしたイベント　・企画する側を増やす　・連絡先を交換する

連絡がとれない→いきつくところ、「連絡が交換できること」が大切



■発表内容概要

あるべき姿については、交流できる場所がないことが挙げられる。現状としては、学生と社会人で興味の偏りがあると思う。また、時間のずれもある。

最終的には大きな交流の場を作っていきたい。社会人と学生が協力して行うイベントが考えられるが、例えば、社会人が学生に場所を提供し、学生がイベントを行うなど、社会人と学生の情報の交流のツールがほしい。駅前に掲示板を作って、イベントの情報など、様々な情報をやり取りできればよいと思う。

「長岡―学生―社会人」の三角形を書いているが、それぞれが満足していくことが重要になる。自分達が満足していくことがマルであるとすれば、重なり合った部分が段々広くなることが3方良しの考え方になると思う。学生だけが楽しんでも交流にならないと思う。

今日は熱のある話を沢山聞くことができ、どんどんアイディアもでてくる。しかし、行き着くところが、連絡が取れないという結論になってしまう。ラインなどのツールも有効であり、みんなが情報を共有できるように行っていきたい。